

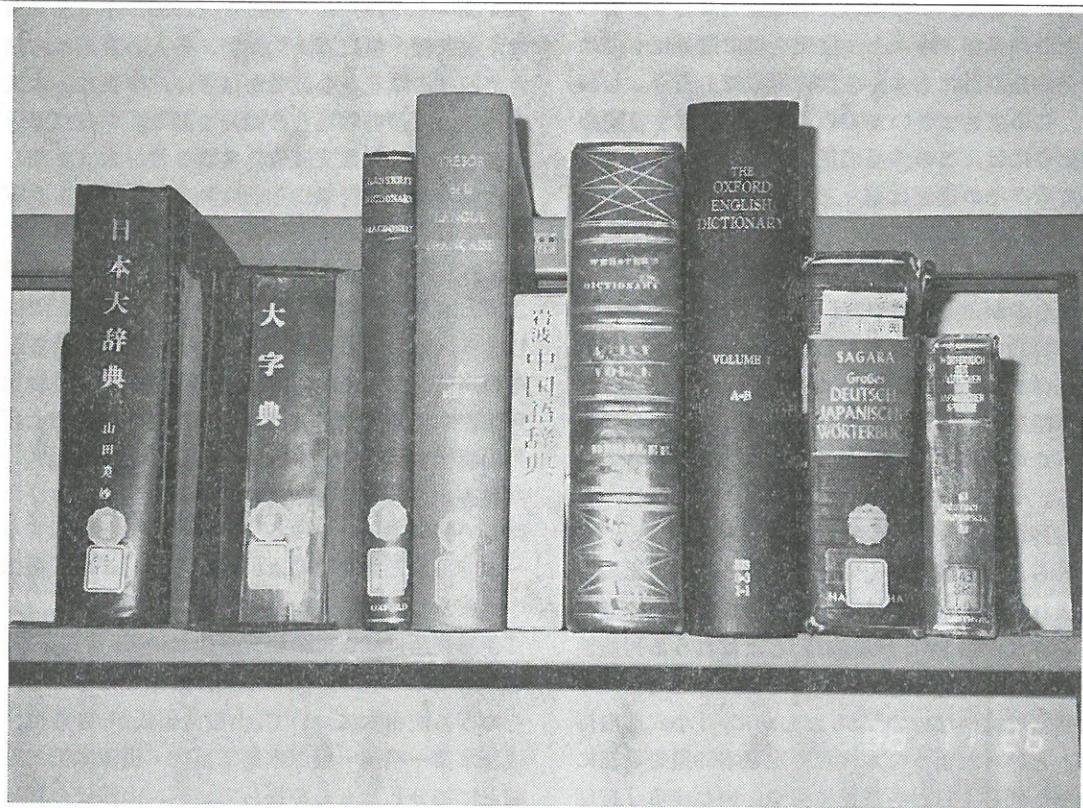
I S S N 0289—9302

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN

KΟΣΜΟΣ

コスモス No. 84 1988 冬

特集 良い辞書との出会い



貴重書から

伊勢物語

——慶長4年幽斎自筆本——

河 地 修

伊勢物語について、いったい、我々はなにを知り得ているというのだろう。在原業平の一代記とか、「昔男」の物語とか、さらには、歌物語の傑作とかいったところで、それがいったい何になるというのであろう。この物語の累々たる享受の跡を思うとき、筆者は、半ば茫然たる感慨を禁じ得ないものがある。この国の文学の歴史に於て、おびただしい量のテキスト・注釈を世に送ったものは伊勢物語以外にも多くを数え得るであろう。しかし、このすさまじいまでのこの物語に対する関心のわりには、この作品の正しい理解といった点に於ては、その進展は遅々として進んでいないと言うべきである。

周知のとおり、現存する伊勢物語は、そのすべてのものが、初冠の段にはじまり、終焉の段におわる。いわゆる「初冠本」の謂なのであるが、この物語のことを、実は、このようにわざわざ「初冠本」なる語をもって言い表さなければならないところに、この物語の置かれた深刻な事情が存するのである。つまり、「初冠本」と言うとき、それは、それ以外の「本」の存在を意識しているのであって、それらとは区別しなくてはならぬという意思表示の表れであるとともに、それらもまた、別の形態をとりながらも、「伊勢物語」とよばれうる可能性を持つことを示しているのである。たとえば、今は残ってはいないのだが、たしかに、「小式部内侍本」といったような本（現存定家本69段を最初に持ち、同じく11段を最後に持つ、いわゆる「狩使本」）は実在したのであり、それもおそらくは「伊勢物語」と称していたはずだからである。

しかし、今あえて言おう。伊勢物語とは、初冠

本そのものを指すのであって、それ以外の何ものでもないのだと。

初冠本とは何か。現存する伊勢物語が、大小の異動を示しながらも、すべてが同一の形態を取っていることの意味は大きい。さらに、それらの一見、種々雑多な歌物語の集合体と思われる章段群が、まがりなりにも、初冠本という明確な有機体としての統一体をめざそうとするとの意味はもっと大きいとしなくてはなるまい。

現在に残る、これら伊勢物語諸本の動かしようのない事実をこそ、我々は真剣に受け止めなくてはならないのであって、初冠本伊勢物語の有する意味の重さを、今、真剣に考えなければならない時期にさしかかっていると言えるのではないだろうか。

さて、このあたりで、本学の蔵する、むろん「初冠本」である伊勢物語について、その概略を報告してみよう。本学図書館蔵『伊勢物語』（K 913.32 : I : 11）は、慶長4（1599）年写、一冊本、縦26厘、横17厘、粘葉装、箱入。表紙は朽葉色に四季の草花を金泥であしらい、中央に、本文と同筆の「伊勢物語」の題簽を貼る。料紙は厚手鳥の子で、墨付本文67枚、奥書3枚、本文1面8行に書写し、1行平均19,20字詰。和歌は1字下げの2行書き、本文と同筆で行間に補入、見せけち、さらに、勘物を有している。末尾には図版で示すとおり「抑伊勢物語根源古人説々不同」ではじまる、いわゆる根源本系統特有の奥書を持ち、その奥に「右以愚本 京極黄門自筆 遂校合加勘物尤可謂證本忽不可許外見者乎／慶長四年林鐘初七／丹山隱士玄旨(花押)」との識語を有している。

奥書から言えば、本書は「伊勢物語」のおびただしい諸本中、いわゆる「根源本系統」に属する一本であると断定してよいであろう。この「根源本系統」なる呼称は、もと、池田亀鑑博士が、『伊勢物語に就きての研究』において、「定家本」を「天福本・武田本・流布本」に分類したものを、そのうち流布本について、山田清市氏が、さらに、根源本第一系統・根源本第二系統・根源本第三系統とに細分したものを指している。山田氏の詳細な研究結果を参照すれば、本書の奥書は、根源本第二系統に属するものと判断しうる。

次に、奥書のあとに続く識語について述べてみ

たい。本書の書写者である「玄旨」とは安土桃山時代の武将、歌人である細川幽斎その人を指す。天文3～慶長15年（1534～1610）に生きた人であり、二条派の正統に位置した近世歌学の祖とも呼びうる人物である。

細川幽斎と伊勢物語との関わりは深く、度重なる書写をはじめ、注釈としては、『伊勢物語闕疑抄』のあることが知られている。そして、幽斎自筆本系統について、詳細な考察を明らかにしたのが、前記山田清市氏の『伊勢物語の成立と伝本の研究』（1972年・桜楓社）であった。

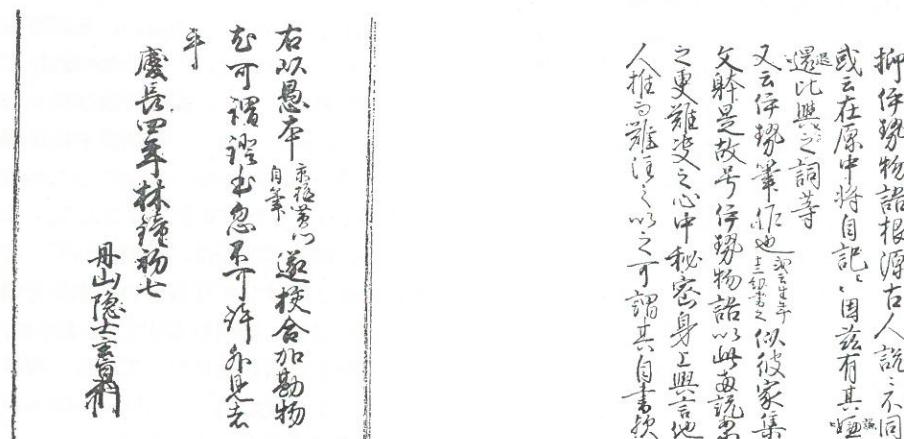
山田氏は、そのなかで、「伊勢物語定家本系「武田本」の研究」なる章を設け、さらに、そのなかの第二項として、「幽斎自筆本系統」と題する見解を明らかにしている。それによると、幽斎自筆本系統に属するのは、1九州大学図書館蔵 幽斎奥書自署本、2鉄心斎文庫蔵 幽斎奥書本、3天理大図書館蔵 中院通勝院自筆本、4岩瀬文庫本、5広島大学図書館蔵 玄旨奥書本、6鉄心斎文庫蔵 慶長3年幽斎自筆本の計6本が報告されているのである。これらの幽斎自筆本系統の諸本は、その殆どが、天正17年（1590年）10月下旬の書写のもの、もしくはそれからの系統と思われるもの、さらには、慶長3年（1599年）の書写にかかるものである。ということは、本書の出現によって、幽斎自筆本に慶長4年自筆本が、しかも「尤も證本と謂ふべし」という新しい一本が加えられることとなったわけである。

そして、本書の識語に言うごとく、幽斎は自筆

本と定家自筆本とを逐一校合したというわけであり、さらに勘物を加えたことがわかるのである。この勘物に関しては、慶長3年自筆本にはみられないものであり、興味深いものがあるが、今回の調査では、武田本のそれにことごとく合致するという結果を得ることができた。つまり、本書の性格としては、根源本の奥書に武田本の勘物を有するものとしてとらえることが可能であり、その意味では、室町末期におけるこの物語の複雑な伝流の一端を窺うものとして貴重なものと言えるであろう。

以上、本書についての概略を報告してきたが、最後になって、大変残念なことを付け加えなければならない。それは、明らかに後人の所為と判断される錯簡、及び落丁が、かなり大幅に認められることである。定家本の章段で言うならば、14段から63段へと錯簡が生じ、さらに81段から16段へと飛び、そのまま33段から82段へと直結しているのである。その間脱落した章段は、15段、17段、22段と23段の大半、27段の途中から31段の途中まで、さらに、34段～63段の途中までが脱落という大変惜しまるべき結果となっているのである。

本書は、今簡略に報告したように、伊勢物語の幽斎自筆本の一本として、不完全ではあるが貴重なものと言えるであろう。むろん、その正確な位置付け等、詳細については他日を期したいと思うが、この物語に関して研究を志すものにとって、本書がすこぶる魅力的なものであることは言うまでもないことである。（文学部助手かわぢ・おさむ）



特集 良い辞書との出会い

辞書への想い

—用いる心—

神田重幸

乱れてきたといわれる日本語の見直しに、近ごろ古い辞書の複製がふえている。明治の作家山田美妙の『日本大辞書』(昭和54 名著普及会) (原版: 明治27 明法堂 813.1 白山) などもその一つであろう。言文一致、日本音調論にもとづき、明治25年7月から分冊で明法堂から刊行されたもので、前年出たばかりの大槻文彦の『言海』への対抗意識から編まれたものらしい。いかにも作家の編纂した辞書らしく、たとえば「あとつき」を父の跡つぐ子と『言海』があげているのは悪い。必ずしも子に限らぬ。「愛」は恋より意味がひろく、外界の物に対しての思い、「恋」はその一部分で、主として男女間に出ていくしみの情、といった調子である。東京語のアクセントをつけたのも辞書では初めての試みであった。異色な辞書であるにしても、仕がら美妙の頃の明治作家の作品を読むことの多い私には重宝なものである。

辞書といえば、私には一つの思い出がある。法科出身の父が「法律は辞書から作られる」と言いつつ、あの字この字と上田万年等編『大字典』(啓成社 813.2 白山)を引かせたのである。新字体の教科書に旧字体の辞書を用いるのであるから子供心に釈然としなかった。しかし父は大正6年の初版を学生時代に無理して買ったようで愛着もことのほかであったのだろう。奥付に『学生版大字典』とついている。その辞書が今私の机の上にある。京都近衛家に伝わる『拾芥抄』のように、嫁入りの娘に辞書をもたせる話はよく聞くが、大学に入る私に記念にくれた。同じようなケースであろう。『大字典』とのつき合いも40年を越えたが、今も用いて美妙ならぬ明治美文の時代の読めない漢字をせっせと引いている。さまざまの辞書氾濫の時代、求めるとまどいはあるにせよ、それを用

いる心が良い辞書との出会いといってよいだろう。

(短期大学教授 かんだ・しげゆき)

Macdonell サンスクリット

辞書のこと

清水 乞

サンスクリット語の辞書と付き合うようになって、30年近くになる。いまだに辞書を使いこなせない状態で、誠に恥かしい。日頃使用しているサンスクリット語辞書に対英のもの3種がある。入門当初は、専ら、文法書の索引に出る日本語の意味を頼りとし、研究室に備えられた Oxford の2種の辞書で、この日本語の意味を検索して安心していた。一通り初級文法を終り、原文テキストを読まなければならないので、辞書を手元に置かなければならなくなってしまった。各辞書の特徴も調べないで最も手軽で、安値な Macdonell (Oxford Univ. 1979 829.89 白山) の辞書を買った。この辞書は382頁で、他の2種 (Monier, Apte) と比べると $\frac{1}{3}$ ~ $\frac{1}{4}$ の頁数である。原文テキストを読むといっても、漢訳や日本語訳を読みながら、サンスクリット語の文章に合せるのであるから、サンスクリット文を読むというには程遠い。それでも辞書と毎日付き合っていると、その特徴が次第に解って来るものである。この辞書の特徴は動詞語根中心で、動詞の意味と一緒に、前接辞や接尾辞を伴なった派生語の意味がされている。このためにわずか382頁に収めることができたのである。この辞書を使う時、動詞派生語は、原則として、その動詞語根に還えさなければならない。単語を検索する度に、いやでも、動詞の意味を読まされ、次に単語の意味をえる仕組になっている。現代語訳のないテキストを読む時 Macdonell に強要された動詞に注意する習慣は大いに役立っている。サンスクリット語辞書には専門語の分野指示が少な

い。特に建築、造型関係術語の指示は全くないので、それを自分で造語しなければならない場合が多い。もちろん、限度はあるが、動詞の意味から類推することで、新造語に成功することがある。こうして30年ばかり付き合って来ると、スリムだった辞書も、最近では中年太りになってきた。

(文学部教授 しみず・ただし)

『フランス語大辞典』のこと

坪 井 一

フランスの言語関係の辞典となるとリトレ辞典が代表とされるが、リトレは19世紀に作られたもので現代の使用に耐えがたくなってきた。そこでリトレの現代版として考えられたのが『フランス語大辞典』(Trésor de la Langue Française, T. L. F.) (Centre National de la Recherche Scientifique. 1971— 853 白山・朝霞)である。

1960年7月にナンシー大学の一角に T.L.F. の資料収集、調査、編集、刊行を目的として国立研究所 (Centre de Recherche pour un T. L. F.) が設立された。ナンシー大学の学長であったインブス (Paul Imbs) 氏が所長となって大辞典編纂の大事業が始まった。71年末に現代語 (19・20世紀) 篇第1巻が刊行され、80年に第12巻を出して終る予定であったが、現在86年刊の第12巻 (～pénétrer) までである。あと6・7巻は必要と思われる。

この辞典は19・20世紀に出た文学作品数千点を基本に1億近い文例をコンピューターに打ち込んで作業を開始した。コンピューターを使ったために語彙の分類検索が容易となり、副産物として極めて多くの文例からの頻度調査表が作られた。

当時としては珍らしいコンピューターの利用に関心をいだいた私は、73年7月ナンシーへ行ってつぶさに T.L.F. 研究所の状況と作業を見ることができた。研究所に泊めていただき、インブス所長と昼食を共にして親しく話を聞くことができた。インブス氏は79年には所長を引退され、昨年その訃報を聞いた。近代語 (17・18世紀) 篇も含めて一日も早く完成することが、インブス氏の遺志に答える途であろう。その日の来るることを祈っ

ている。

(文学部教授 つぽい・はじめ)

ある辞書の思い出

横 川 伸

ついこのあいだ、中国留学生のC君がレポートを書くので辞書を紹介して欲しいと私の所に来た。日本語の言い回しをしらべるのであるなら、例文の多いものがよかろう、と紹介したのが「岩波中国語辞典」(倉石武四郎著 1980 823 白山・朝霞)である。

C君には使いにくいと言われてしまったが、この辞書を、私がはじめて手にしたのは、二十数年前の1964年、中国奥地の四川の大学にいたころであった。どういう経緯で手に入れたのかはまったく覚えていないが、強烈な四川訛りが響く田舎でのこの辞書を開くと、そこには老舗の世界、北京の香りが漂ってくる。これが私にとっては懐かしくてたまらなかった。また語彙は中国語のローマ字綴りに従って、ABC順に排列しているので、たいへん新鮮であった。この辞書によって、何か新しい世界が開けるような気すらした。

この辞書をC君がいやがったのは、中国のローマ字綴り (ピンインと呼んでいる。正式には「漢語拼音方案」) を知らないからであった。漢字表記も、現在の簡体字を使っていないので、彼には読みづらいのである。

この辞書の語法面での解釈には定評があるが、表記に関しては著者が亡くなられたせいか、いまだに改められていない。それでも私は依然として愛用しているし、上級クラスの学生にも奨めている。聞き取りには、いたって便利だからでもある。現在、中国語の辞書は中国のめまぐるしい変化を反映して、辞典+事典的なものが多くなっている。これがいいのかどうかは別としても、私の愛する「岩波中国語辞典」が「歴史」になりつつあるのを、残念なことではあるが感ぜずにはいられない。

(文学部助教授 よこかわ・しん)

~~~~~  
〔注〕( ) 内に分類番号・所蔵館を付す

## Webster と O E D

三 浦 敏 明

今から31年前、雑草の生い茂る徳島の僻地から東京一宇野間、1日たったの1本という急行瀬戸号で上京したのは、忘れもしない昭和32年4月初旬、私が、18歳の春のことであった。その時携えた唯一の英語辞書は、中学教師になって間もない長兄からのもので、手垢と汗で汚れに汚れた、島村盛助・土居光知・田中菊雄編『岩波英和辞典』(833 川越)であった。

大学入学後の1年間は、夢のように過ぎ去った。しかし、2年生頃から、この辞書だけでは限界があることを、とくと知られ、来る日も来る日も悩み苦しんだ。その頃、早稲田で若山牧水と同期の、佐藤利吉(緑葉)先生の研究室にあった巨大な辞典は、アメリカを代表する Webster<sup>2</sup>(第2版 1934 S.Converse, 1828 833 白山・川越)であった。現在までに、Webster<sup>1</sup>(1909), Webster<sup>3</sup>(1961)が出ており、Webster<sup>3</sup>は、5年ごとに追録を付加してきている。そして、一方、イギリスが世界に誇る大辞典、略語O E D (= N E D)(833 白山)を知ったのは、吉川美夫・遠藤敏雄両先生からであった。これは歴史的原理に基づいて編纂されており、1150年以後の文献に現われたすべての常用語を出来る限り収録し、各語の語形、語義、語源、発音等を示すとともに、引用文例も載せている。その後、何度か補遺は出たが、O E Dをコンピューター化して、これをだす計画があり、『コンピューター版O E D』は間もなく刊行されること、期して待っているのも私ひとりではないであろう。

二つの辞典は、青春時代からの知的喜びの源泉であり、私は、今もなお寸暇を惜しんでこれらを引き続いている。

(工学部教授 みうら・としあき)

## 良い先生と良い辞書

小 林 貴美子

ドイツ語を勉強し始めた時、私が最初に求めたのは博友社の『木村・相良独和辞典』(新訂:昭和55 843 白山・川越)だった。これは当時標準的な良い辞典といわれ、私も大恩恵を受け、今も愛用している。1963年には改稿新訂版も出され、現在まで不变の価値を保っている。

ただ言葉というものは時代と共に変化していくので、歴史的な把握と同時に現在の使われ方がわからなければならない。最近数十年の言葉の変化は特に激しくなっていることを考えると、現在生きている言葉を知るための辞典が必要となる。

恩師ローベルト・シンチングル先生が中心となって作られた三修社の『現代独和辞典』(Schinzingher, Robert, 山本明, 南原実共編 1974 843 白山・朝霞)は出るべくして出たものといえるだろう。堅苦しくなく、とても平易で使い良い辞典だな、というのが第一印象であったと思う。「序」に先生の長年の教育経験に基づくこの辞書の基本方針が書かれているが、語義についていえば「今日もっともふつうに用いられているものを最初に挙げ」たと述べられている。1972年の刊行以来版を重ね続け、ハンディな独和辞典としては最もポピュラーなものとなっているから使い易さの点で異論はないだろう。

シンチングル先生は哲学を学ばれた方だが、1923年の来日以来、本年10月に90歳で亡くなられる迄60年以上の長い間、日本でドイツ文学・哲学を講義された。そしてドイツ語の美しさ、美しいドイツ語を教えられると共に、著書などをも通じて日本とドイツの相互理解に努められた。日本に骨を埋められた今、最近まで親しく教えを受ける機会を得た私としては、日夜気軽にこの辞書に手を延ばす度に、先生の果された役割を思う。この辞書を完全に使いこなせれば、私にとって本当に良い辞書になったといえるのだろう。

(工学部教授 こばやし・きみこ)

## レファレンス・ケーススタディ (4)

## コツコツ調べるためのコツ(1)

資料を探したり、ものごとを調べたりするには、ある種のテクニックやコツのようなものがあります。参考係で最近回答した質問を例にしながら、そのコツを紹介しましょう。

## 1. 質問のしかたにもコツがある

よく、質問のしかたがよければ、回答の半分はできたも同然だといわれます。質問をするときには、漠然と質問するよりは、自分の調べたいことがらを具体的かつ明瞭にきいてください。

自分で何を調べようとしているのか、はっきりしていない場合は、図書館の職員と会話をしているうちに、だいぶ明確になっていくでしょう。

たとえば：

利用者「自動車のことを知りたいのですが」

職 員「自動車のどんなことですか？」

利用者「?…………」

職 員「たとえば、自動車の構造とか、生産台数、輸出台数、自動車の歴史とか、いろいろあると思いますが……」

利用者「アッ、日本の自動車輸出額です」

職 員「どこの国への輸出額ですか？それとも日本から外国への総輸出額ですか？」

利用者「アメリカへの輸出額です」

職 員「日本からの自動車輸入額がアメリカの自動車輸入総額の中でどの位になるか比較する必要はないのですね」

利用者「エッ、それがわかれれば、なおいいのですが」

この会話はまだ少しつづくかもしれません。「自動車のこと」という質問が次第に具体的になっていく様子がわかるでしょう。

質問する前に自分の知りたいことは何なのかを整理しておくとよいでしょう。会話の過程で、自分の知りたいことが少しずつわかってくることもあります。会話が途中までしかなかった場合、たとえば、アメリカの自動車輸入総額のうちの日本からの自動車輸入額はわからなかったかもしれません。

こんな会話をしていると、係の人から、何やら

根掘り葉掘り聞かれているようで、いやになるかもしれません、みなさんのいちばん知りたいことをつかもうとしているのです。

## 2. 間違った情報にもとづいて質問をしてわからない：人のいったこと、記憶なんてあてにできない

質問：「D・H・ロレンスの『白孔雀』という作品が、中央公論社から出ている『世界の名作』という全集に入っていると聞いたのだけれど、近くの公共図書館になかった。この全集をもっている所がないだろうか」

『世界の名作』という全集は、実は出でていないのです。調べてみると『白孔雀』は、『世界の文学』（中央公論社刊）の第34巻に入っていることがわかりました。

『世界の文学』でたずねれば、案外、最初に行った公共図書館にあったかもしれないのです。

教えてくれた人の記憶違いだったのか、はたまた、自分の記憶違いだったのでしょうか。

この場合は、『世界の名作』で探してもなかなかわからないので、『白孔雀』を手がかりにして探したら、『世界の名作』は間違いだとわかったわけです。ただ『世界の名作』をもっている図書館がどこかないだろうか」と聞かれたら、何もわからないままに終ったでしょう。

人の記憶というものはあまりあてにしないほうがよいでしょう。記憶があてにできないので、文字を発明し、紙や筆記具などの記録手段を発展させてきたのが人間の歴史ですから。

人から聞くしか方法がなければ、できるだけ多くのことを聞き出しておいてください。たとえば、著者名、書名、出版者名、出版年などなど。

それぞれの断片的な情報が、まるでジグソーパズルを組み上げていくときのように、重要な手がかりになるのです。

## 3. コピーをとるにもコツがある

いまの季節になると、1枚のコピーをもってきて、「コピーをとったのですけれど、何からとったかわからなくなつたのですが……。レポートの

参考文献に本のタイトルや出版者、出版年を書かなければいけないので、わかりませんか」などととんでもない質問があります。わかることも、たまにはありますが、大概はわかりません。

コピーをとるときは、書名の書いてある最初の

ページ（タイトル・ページといいます）と、出版者や出版年の書いてある最後の方のページ（奥付といいます）と一緒にコピーしておけば、こんなことであわてなくてすむのです。ちょっとした注意が、最後のキメを左右します。

## 図書館 あ・ら・かると

### ★閉架書庫の利用について★

朝霞、川越の図書館は開架方式ですから、殆どの図書は自由に閲覧できます。

白山図書館は逆に約90%の図書が、自由に入れない閉架書庫にあるため、閲覧はカウンターを通してしかできません。そのため、慣れない皆さんは不便を感じることでしょう。約48万冊の図書のうち、開架書庫にある図書は約43,000冊です。所蔵雑誌は全部で7,000タイトルを超えていますが、閉架書庫にあるのは320タイトルで、最新号と、その前号・前々号が置いてあります。閉架書庫に入れる方は、主として論文を書く方が対象ですが、その他カウンターにご相談下されば、入庫することができます。入庫者名簿に記入し、バッヂを受取り、学生証を預けるだけでOKです。書庫の中は結構複雑ですので、わからない点がありましたら、ご遠慮なく係へお尋ね下さい。

皆さん、どうぞご利用下さい。

### ★来春卒業される皆さんへ★

卒業された後も校友として引き続いて本学図書館を利用することができます。

利用される場合は、まず卒業証明書（卒業証書は不可）を1通カウンターに提出して下さい。引き換えに「図書館利用カード（校友）」をお渡しいたします。手続きはいたって簡単です。

館内で閲覧する場合は1度に5冊まで、借出する場合は3冊までを1ヶ月間貸出します。朝霞・川越の各図書館からも、手続きの上、それぞれ借出することが出来ます。

一度発行されたカードの有効期間は2年間で、現在200人程の方々が校友利用者として登録されています。

卒業される皆さん、校友となられてからも是非図書館を利用されますよう願っております。

詳細については、カウンターでお尋ね下さい。

### ★工学部分館のAV資料から★

現代は急速に映像文化の時代に突入しており、文字を中心とした図書館資料のなかへも、映像メディアが入りこんできました。

工学部分館では、時代の要望に応えて、昭和61年9月以降、ビデオ資料の蒐集をはじめています。

まだ微々たる内容ですが、ユニークな資料が多いので、広く皆様に関心をもって活用されますことを希望しております。

分野別の所蔵点数は次のとおりです。

企業紹介53点、科学工業64点、スポーツ12点、語学3点、一般教養13点、劇映画6点。（昭和63年11月末日現在）

### ★ファックスが設置されます★

このたび、白山・朝霞図書館にファックスが設置されることになりました。

〔電話〕白山 03(945)7330

朝霞 0484(61)5782

### 『編集後記』

今回は『良い辞書との出会い』という特集で、先生方から辞書を紹介していただきました。

使いこなされた個々の辞書にまつわるエピソードや動向など一般的な紹介では窺い知れない味わいを皆様とわかつあえればと思います。